

前月末の子どもの姿

- 何かになったつもりになって、探検ごっこやお店屋さんなど、なんとなく淡いイメージでつながり、友達と遊ぶことを楽しんでいた。
- 自分で作りたいものを作るようになったことが楽しくて、いくつも作る姿が見られた。
- お客さんに見てもらおうことを楽しみにしていた。

今月のねらい

- いろいろな遊びに興味を持ち、自分なりの思いを持って取り組もうとする。
- 保育者や友達と“一緒”の楽しさを感じて遊ぶ。
- 幼稚園での生活の仕方が自分なりにわかり、できた満足感を味わう。

クラス作りのポイント

- 興味を持った素材や遊具にかかわり、自分なりの思いやイメージを持って遊べるように、多様に見立てられるような遊具や素材を準備し、それぞれがやりたい遊びを十分にできるような時間と空間を確保していく。
- 保育者や友達と“一緒”の心地よさを感じられるように、みんなで集まって音楽やお話を楽しむ時間を作ったり、同じグッズを持ったり身につけたりできるように準備していく。
- 自分でやってみることを楽しめるような場面を作り、楽しみながら生活習慣が身につくような工夫をしていく。



	1・2週	3週	4週	5週
ねらい	●興味を持った遊具や素材にかかわり、見立てたりなりきったりして遊ぶ。 ●園生活の流れを感じながら、自分ができることに自信を持ってやろうとする。	●いろいろな遊具や素材にかかわりながら、自分なりの思いを持って遊ぶ楽しさを味わう。 ●保育者や友達と同じものを持ったり身につけたりして、“一緒”の楽しさを味わう。		●いろいろな遊具や素材にかかわり、見立てたりなりきったりして遊ぶ。 ●同じものを持ったり身につけたりして、友達とのつながりをなんとなく感じて遊ぶ。
内容	●場を見立てたり何かになりきったりして自分なりのイメージをわかせる、体を動かして遊びを楽しむ。 ●保育者や友達がいる遊びに興味を持ち、まねしたり自分なりにやってみようとしたりする。 ●画用紙片などを貼ったりつなげたりしながら、自分なりの思いを抱いて遊ぶことを楽しむ。 ●追いかっこや固定遊具、大型遊具などで思いきり体を動かして遊ぶ。 ●木の実や葉に興味を持って集めたり、それらを使って遊んだりすることを楽しむ。 ●園生活の流れ（身のまわりの始末や片づけ、お弁当など）を感じ、自分なりにやってみようとする。	●友達と同じものを持ったり身につけたりすることで、場を見立てたり何かになりきったりしてイメージをわかせて遊ぶことを楽しむ。 ●同じ場で遊ぶ友達と言葉を交わしたり、やりとりをしたりして友達を感じて遊ぶ。 ●戸外では三輪車に乗ったり追いかっこをしたりして、思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 ●保育者のまわりに集まって、みんなで一緒に歌ったり曲に合わせて踊ったりすることを楽しむ。	●保育者や友達と同じものを持ったり身につけたりして、やりとりを楽しみながら場を見立てたり、何かになりきったりしてイメージをわかせて遊ぶことを楽しむ。 ●自分で作りたいと思ったものや友達の持っているものなどを、身近な素材で作ることを楽しんだり、作ったもので遊んだりする。 ●保育者や友達と一緒に歌ったり、お気に入りの話の主人公になりきって遊んだりすることを楽しむ。	●一緒に遊ぶ友達とのつながりをなんとなく感じながら、遊びを楽しむ。 ●戸外での鬼遊びや伝承遊びなどを通して、友達や保育者とのやりとりを楽しむ。 ●保育者や友達と一緒に歌ったり、お気に入りの話の主人公になりきって遊んだりすることを楽しみながら、お客さんに見てもらおうことを楽しみにする。
季節行事や変化	2学期始業式	ギンナンが色づく、落ち葉	ふよう（子育て）広場	たのしみ会
環境構成と援助・配慮のポイント	●先月に引き続き、なりたいたいものになりきって遊べるように、頭バンドやベルト、スカートなど十分な量を準備しておく。 ●作りたいものを作ったり、友達の作ったものに興味を持ったりして、自分なりに作ることを楽しめるように、新聞紙や広告紙、画用紙片、ダンボール片など、自分で扱える材料を十分準備しておく。 ●先月から続けている取り組みとして、お気に入りの音楽に合わせて保育者や友達と一緒に体を動かすことをくり返し楽しめるように、一日の流れの中で時間を作ったり、場を確保したりする。保育者も“お客さん”になるなどして、新たな楽しみ方ができるようにしていく。 ●園庭では固定遊具や追いかっこなどを保育者も一緒になって遊び、思いきり体を動かして楽しんでいく。保育室には巧技台の一本橋や太鼓橋などを準備し、子どもたちが登り降りを楽しめるようにする。 ●自然物（木の実や葉など）と一緒に集めたり並べたり、潰したりして楽しんでいく。また、自分なりの方法で思う存分遊べるように、ビニール袋や空のゼリーカップなどを多めに準備しておく。 ●一日の生活の流れを感じ、身のまわりの始末やお弁当の準備、片づけなどを自分でやってみようとする雰囲気作りをする。やろうとする姿を認めるとともに、「自分でやってみよう」と思えるように励ましていく。	●同じものを身につけてなんとなく集まり、“一緒”を感じられる場（おうちやお店屋さん、警察署の見立て遊びなど）を、遊びの様子を見ながら一緒に作っていく。 ●戸外では思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるように、三輪車を準備したり追いかっこを楽しんだりしていく。 ●木の実や落ち葉など秋を感じる自然物を集めたり、落ち葉にまみれて遊んだりできるように、落ち葉を掃かずに残しておき、保育者も一緒に落ち葉にまみれて遊ぶことを楽しむ。 ●身のまわりの始末や片づけ、お弁当の準備など、“自分でできた”ことを保育者と一緒に喜びながら、さらに“自分でやってみよう”と思える場面をたくさん作っていく。また、“自分でできた”と思えるような状況を作るように心がける。 ●思いが伝わらずトラブルになっている場面では、それぞれの思いを保育者が受けとめ、気持ちが落ち着くようにしていく。必要に応じて、互いの思いをわかりやすく伝えたり新たな提案をしたりするなど、かかわり方を知らせていく。	●思い思いになりたいたいものになって遊べるように、頭バンドやベルト、スカートなど十分な量を準備しておく。また、それぞれが使いたいときに使えるように、置き場所をわかりやすくしておく。 ●作りたいものを作ったり、友達の作ったものに興味を持ったりして、自分なりに作ることを楽しめるように、これまで経験した素材（新聞紙、広告紙、画用紙片、ダンボール片など）に加えて、トレットペーパーの芯なども十分な量を準備しておく。 ●遊具にかかわりながら自分なりに見立てたり、思いを持ったりして遊べるように、巧技台や大型発泡スチロールでできた遊具を保育室やウッドデッキに組んでおく。また、見立てやつぶやきを拾って、グッズを作ったりなりきったりして一緒に遊んでいく。 ●保育者のまわりに集まってする活動を楽しめるように、素話やみんなで楽しめる歌、リズム遊びを取り入れていく。 ●たのしみ会に向けて、他学年の演技を見ることでたのしみ会のイメージを持てるように、練習の段階から見せてもらうようにしていく。	●友達と同じものを身につけてなんとなく集まって“一緒”を感じられる場（おうちやお店屋さん、警察署などの見立て遊びなど）を残しておき、くり返しかわかれるようにする。 ●戸外では、保育者や友達とのやりとりを楽しめるような鬼遊びなどを楽しむ時間を作っていく。 ●たのしみ会に向けて、他学年の演技を見ることでたのしみ会のイメージを持てるようにする。また、自分たちもお客さんに見てもらおうことを楽しみにできるように配慮する。

家庭や地域との連携

- たのしみ会では、幼児が本番までに向かっていく過程に学びがあることを伝え、行事の前後での子どもの姿を伝えていく。
- 保護者も模擬店などを企画、準備することで、保護者同士が協力の仕方を学んでいくとともに、子どものために何かを成し遂げられた充実感を味わえるようにする。

今月の歌・絵本・手あそび

- 口ずさみやうたの歌詞の歌……「さんぽ」など
- 同じ言い回しが何度もあり、内容を楽しめる絵本……『おおかみと七ひきのこやぎ』『三びきのやぎのらがらどん』など
- やりとりを楽しめる手あそび……「やきいもグーチャーパー」など

11月の保育実践を見つめなおす目（援助と環境構成をふりかえる）

- なりたいたいものになったり、作りたいものを作ったりできるような材料を工夫したり、音楽に合わせて体を動かして楽しむ時間を作ったり、お客さんになったりするなど、いろいろな遊びに興味を持てるように援助できたか。
- 同じものを身につけたり、保育者や友達とのやりとりを楽しんだりしながら、“一緒”の楽しさを感じて遊べるように工夫できたか。

木々が色づき、イチヨウやケヤキ、カエデなどの葉が落ちる季節である。落ち葉を拾ったり集めたり、それらにまみれたりして遊ぶことも楽しい。落ち葉を集められるような道具（ミニ熊手やチリトリなど）も工夫したい。遊具に集めたりお布団にしたりするなど、十分に季節を楽しめるようにしていきたい。